

はじめに



この本は採択に至るまでの科研費申請のポイントをまとめたものです。

国立大学が法人化され運営交付金が削減される中で教員の研究費も削減され、大学や教員も外部の競争的資金の獲得が必須となっています。また、多くの私立大学や研究機関の研究者も同様です。日本の研究者にとって科学研究費は誰にでも公平に応募できる主たる競争的研究資金であり、政府全体の競争的資金の6割以上を占めています。筆者も東北大学工学研究科に30年余り在籍し、科研費獲得に一喜一憂してきました。

この本を書くきっかけになったのは、平成23年に高専に赴任し、教員の科研費申請についての講演や、申請書のアドバイスをしている中で、多くの教員が科研費の申請書のノウハウを熟知していないことに気付いたことです。科研費の「研究種目」をどう選択するのか、「応募分野」は、「研究題目」や「目的・研究計画」をどう設定したら良いかなど、現在遂行している研究にそれなりの新規性や社会的意義が十分にあるのに、それが申請書に反映されていないことにあります。筆者がこれまでに科研費の応募者として、審査委員として経験してきたポイントを記載にすることにより、出来るだけ多くの研究者の方々に、より良い申請書を書いて頂ける一助になればと思い、本書の出版を決意した次第です。

本書の特徴として、若手研究者向けの「特別研究員」や「研究活動スタート支援」の申請の書き方も紹介していることです。特に、「特別研究員」申請に関しては、科研費外ですが、特別研究員として採択されれば、自動的に特別研究員奨励費も支給されることから、本書で取り上げることとしました。筆者の研究室の博士課程後期の学生のほとんどが特別研究員に採用され、充実した大学院生活を送ってきたことから、是非一人でも多くの特別研究員希望者が、持っている実



力を発揮して、採択に至る申請書を提出できるように、その申請のポイントを紹介したいということもあります。

第1章では、科研費の目的・性格、科研費の応募資格、科研費の種類、現状等の科研費の基礎知識について紹介します。

第2章では、科研費の応募研究種目の選び方、申請までの準備について説明します。

第3章では、科研費審査の概要として、審査委員の選考や各研究種目の審査基準について言及します。

第4章では、採択される申請書を目指して、題目の設定の仕方、審査委員が読もうという意欲が出る申請書の書き方、基盤研究等の研究計画調書の各項目の書き方のポイント、特別研究員の申請書や、評価書の書き方、研究活動スタート支援や奨励研究の申請書の書き方等をアドバイスしています。

第5章では、科研費の申請手続きについて、申請から採択までの日程、電子申請の仕方、採択通知と採択後の手続き、不採択通知について紹介します。

第6章では、科研費のよくある疑問についてQ&Aとしてまとめました。

最後に、本書は発行時の情報を基に執筆されたもので、また、科研費の仕組みや様式など毎年変更になっており、さらに、本書で紹介している各種のホームページや参考書など、本書をご使用になる際に、記載した内容と異なっている可能性があります。その際にはご容赦頂きたいと存じます。

本書が、科研費獲得のための皆様の一助となれば幸いです。

2014年7月

岡田 益男